会　議　録

【事業番号１７　金沢・現代会議開催費】

１　会議名　　平成 29 年度第１回市民行政評価委員会

２　日　時　　平成 29 年 9 月 27 日（水）午後２時 15 分～２時 45 分

３　場　所　　議会第３委員会室

４　出席者

（１）市民行政評価委員会委員

岡田委員長、村田委員、林委員、山崎委員、寺田委員、
大家委員、喜成委員、西山委員、藤田委員、安田委員

（２）事業担当課（文化政策課）

新保課長、小西主事

（３）事　務　局（行政経営課）

津田課長、松本課長補佐、島崎係長、古谷主査

５　審議内容

評 価 委 員　：　過去の参加者の属性や感想、要望を教えて欲しい。（事前質問）

事業担当課　：　昨年度開催時のアンケート結果は以下のとおりである。

平成28年度アンケート結果（回収数217件）

男女比	男性：50%　女性：35%　未回答：15%
年齢比	20歳未満:1%　20～30代:10%　40～50代:23% 60歳以上：65%　未回答：1%
住まい	市内：74%　市外：18%　県外：7% 未回答：1%
参加回数	はじめて：52%　２回目：21%　３回目：15% ４回目：6%　５回目：5%　未回答：1%
感想など	・来年以降も継続してほしい（15件） ・時間が短い（14件）

評 価 委 員　：　この事業はいつからやっているか。

事業担当課　：　平成23年度の鈴木大拙館開館100日後である、平成24年１月から開催している。鈴木大拙館ゆかりの人にアンバサダー（広報大使）になってもらい、大拙について語り合ってもらう会議である。

評 価 委 員　：　５年間、事業のPDCAをどうしているか。入場者数や参加者の変化、開催時間の工夫など、過去の成果や反省をどう活かしているか。

事業担当課　：　我々も何をもって評価するかについては考えている。会場の規模や参加者数はアウトプット指標にしかならない。鈴木大拙の思想

を通して、人々が生き方などを見つめなおすきっかけになることを目指しており、金沢だから出来るのではないかと思う。多くの方に来場していただき、その結果をアンケートで知るということが目標になるのではないかと思う。また、平日の夜だと高齢者の方が参加しづらいし、平日の昼だと働いている人が参加しづらいので休日の日中にするなど、様々であるが、幅広い年齢層の方が参加出来るように工夫していきたい。

評 価 委 員 ： 昨年度に参加したが、時間が短く感じた。哲学は難しいテーマであり、収益を考えると民間で行うのは難しい。市がやるからこそ意義があると思うので継続して欲しい。時間などを試行錯誤しているのは良いが、中身をもう少し絞っても良いのではないか。

事業担当課 ： 「現代に生きる、現代を生きる」というテーマが今一番分かりやすい。テーマを絞ると講師が探しにくくなる。鈴木大拙の思想が分かった上でのお話しをしてもらいたいので、講師が限られてくる。講師の日程や講演料に合わせると今の状態になってしまう。参加者に合わせた時間なども含めて検討していきたい。

評 価 委 員 ： 昨年度の事業費が上がったのは、講師が有名な方だったからか。

事業担当課 ： そうではなく、参加人数や内容を充実させて大々的に開催したためである。

評 価 委 員 ： 市としては経費の問題ではなく、このイベントは力を入れるべきだと思う。ただ現実問題として、継続させるにはある程度の経費削減の工夫はいる。５年目である平成28年度は内容を充実させたとのことだが、節目・節目で大々的に行うことは良いことだと思う。また、パネルディスカッションは聞く側も楽しくなるため良い方法だと思う。パネルディスカッションを大拙館で流してみてはどうか。

事業担当課 ： 会議の模様は収録していて、それは大拙館内のiPadで見ることが出来る。大拙館ではアーカイブ事業にも力を入れている。

評 価 委 員 ： 二次評価で入り込み率が減っているとあるが、その理由は。

事業担当課 ： 昨年度は事業費も大きかったが、文化ホールでありながら500人程度という若干少ない人数であり、時間的な理由かもしれない。検証してみたいと思っている。

評 価 委 員 ： テーマは何だったのか。

事業担当課　　基本的な大テーマは「現代に生きる、現代を生きる」である。

評 価 委 員 ： この難しいテーマで500人の入りは素晴らしいと思う。

事業担当課 ： 500人だと、文化ホール以外に市とすれば会場がない。アートホ

事業担当課　　ールでは300人になる。

評 価 委 員　：　大きな規模でやるのは、複数年に１回にするなどの方法があるのではないか。続けることが大事である。